

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ミュージックセオリーⅡ		授業形態/必・選	講義	必修
	ミュージックビジネス			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験12年。専門学校在籍時にロックバンドキーボーディストとしてメジャーデビュー。脱退後は様々な現場でサポートキーボーディスト、マネージャー、アレンジャーとして活動。					
授業概要						
音楽業界(演奏・制作)での活動において最低限必要な実技や把握しておくべき権利関係の知識、また近年必要不可欠なSNSを使用したプロデュース(自他ともに)・宣伝力を養う。						
到達目標						
現場に必要な最低限のDAWの基礎技術の習得。 収益化を見据えた権利関係の知識や、確定申告などへの理解を深める。 SNSを使用した企画・宣伝力の向上と流行を的確にキャッチする感性を養う。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	・著作権について 楽曲に対して発生する著作権や著作隣接権などを理解する。 (1～3回説明・4～5回目で例を提示し実際の計算方法や必要な手続きを実践)					
【前期】 6～10回目	・データのやり取りと請求書作成練習 クライアントとの楽曲データのやり取りが正しくできるよう練習。 納品後の流れや請求書の作成方法・税表記などを実践。					
【前期】 11～15回目	・マネージャー実習制作だけでなく、ライブ現場においての仕事もこなせるようマネージャーの技術を身につける。(データの組み方・クライアントとのやり取り)					
【前期】 16～19回目	・データ納品 制作、マネージャー等に必要データ(音源・譜面・プロジェクト等)の納品が正しくできるように、実際に用意したデータを使用して実践練習。正しいマスター譜の作成や歌詞データ、セトリスト等の共有の練習。					
【前期】 20回目	「前期試験」					
【後期】 21～24回目	・流行へのアンテナを張る 現在の流行の音楽を知り、なぜ勢いがあるのか、またこれからどのようなものが流行るかの予測をする。 (未発表のフェス等の出演者を予想したり、TV等の出演への予想などをしてみる)					
【後期】 25～29回目	・SNSを使用したプロデュース InstagramやTikTokを使用して自身・他者のプロモーションを行うための研究。 すでに効果を挙げているものはなぜ成功したのかを検証、議論。 今後プロモーションするにあたってどのような戦略を立てれば良いかを考える。					
【後期】 30～37回目	・確定申告 確定申告についての理解を深める。 必要な資料や日頃からやっておくべきこと、経費についての正しい知識や税金について学ぶ。 模擬的な書類作成の練習。					
【後期】 35～38回目	・年間復習 権利関係の復習～請求や確定申告までの一連の流れを再確認。 データ納品やマネージャーとしての技術面を再度実践し、現場で生かせるようにする。					
【後期】 39回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	避けて通りたいけど避けては通れない内容を、なるべく噛み砕いて楽しく学んでみましょう。 みなさんがこの先社会に出て、何か一つでも役に立つ授業になるようにしていきます。					
使用教科書	必要に応じて講師側で作成・配布					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	Track Making		授業形態/必・選	実習	必修
	Rec&Mix			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験18年高校卒業後に音楽系専門学校に進学。卒業後はサックス奏者として、ジャズを中心にロックやポップス、舞台や映画等で演奏。 その後DTMを始め、作曲家やミキシングエンジニアとして活動の場を広げ、様々なアーティストや企画に携わる。 現在、自身のバンドやサポート、イベントの企画主催等の活動をしている。					
授業概要						
歌や楽器のレコーディングの方法や、マイクの種類や使い方を学び実践する。 ディレクションの方法やレコーディングに関する準備も学習する。 自作曲のミックスができるよう、DAWの操作方法やプラグインの使い方等を学習する。						
到達目標						
良い音を知り、目標の音が作れるようになり、自作曲を仕上げるようになることが目標。 レコーディングをどんな場所でもできるようにするよう、コミュニケーションの取り方も含め実践できるようにする。 自作曲の配信ができるようになる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	[Mixとは何か、必要性の理解を深める] DAWとは何か、授業で使用するLogic Proの特徴や基本操作を学ぶ					
【前期】 6～10回目	[Mixの基礎知識、基本操作の実習] オーディオトラック、MIDIトラック、Auxトラックの違いや使い方について理解する。 トラックの音量の合わせ方、パンの設定の仕方を学ぶ。					
【前期】 11～15回目	[イコライザー/コンプレッサー/リバーブの実習]イコライザやコンプレッサー、リバーブの基礎知識、基本的な使い方を学ぶ。用途に合わせた使い方や使う意味、効					
【前期】 16～19回目	[ヴォーカルレコーディングの実習] マイクの種類の知識や使用方法を学習。 実際のレコーディングの流れやディレクションを学習。					
【前期】 20回目	「前期試験」					
【後期】 21～24回目	[サチュレーション学習] サチュレーター、テープシミュレーター等の、Mixの質感を上げるための歪みの知識や方法を学習する。					
【後期】 25～29回目	[空間系の設定の学習] 応用的な空間系の知識を深める。 ディレイの種類や用途を学習し、音の広がりや音の馴染ませ方を学習をする。					
【後期】 30～34回目	[ヴォーカル処理の応用] ヴォーカルの処理を学習する。 歌詞を聞き取りやすくするボリュームオートメーションや、ピッチ修正のやり方を学習する。					
【後期】 35～39回目	[ラウドネスについての学習] ラウドネスとは何かを学習する。 現在のYouTubeやApple Music等にアップロードするときの音圧についての知識と楽曲のマスタリングについてを学習する。					
【後期】 40回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	ミックスは、楽曲の完成にとっても大切な工程です。 どういふところに注目すると良いかを一緒に学習していきましょう。 ミックスがうまくできると、自作曲が高級に素敵になります。					
使用教科書	その都度講師が資料を用意し、学生に配布。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択DAWⅡ(前期/後期)		授業形態/必・選	講義 必修	
	DAWアレンジⅠ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験30年。大手ゲーム制作会社所属にてゲームBGM制作、その後ポップロックバンドのキーボーディストとしてメジャーデビュー、その後インペグ屋所属ミュージシャンとして様々なアーティストのライブやレコーディングに参加、その後2024年現在まで作家事務所に所属し、様々なアーティストに楽曲・歌詞を提供。					
授業概要						
主に音楽理論に絡めて、楽曲アレンジの方法論を教え、実際にアレンジまたは作曲してもらいます。EDMに関しては、現在の音楽制作に必要な知識やアレンジスキルがいくつかあるので、そこは教えておきたいと思っています						
到達目標						
前期はまず、コードやスケールに関して、音楽理論に裏打ちされたアレンジができるようにしっかりと教えていきたいです。後期は音楽理論以外で、アレンジに関することを教えていこうと思っています。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	<ul style="list-style-type: none"> コードに付加するテンションノートについての解説(ナチュラル・オルタード) ダイアトニックコードの機能の解説、代理コードによる置き換え、II-V分解 ノンダイアトニックコードに関する解説(セカンドリドミナント、モーダルインターチェンジ、裏コード、ブラックアダーコード等) 					
【前期】 7～11回目	<ul style="list-style-type: none"> 1～3回目の授業を踏まえ、簡単な重調のリハーモナイズ(例:『ちよちよ』『チューリップ』等) その他、簡単な有名曲のリハーモナイズ(例:『鉄腕アトム』等) 					
【前期】 12～16回目	<ul style="list-style-type: none"> スケールについて解説。多様なスケールを使って異国感のあるアレンジへの活かし方を教える 実際にイオニアンやエオリアン以外のスケールを使って異国感のある曲を作ってもらう 					
【前期】 17～21回目	<ul style="list-style-type: none"> 転調について、近親調について、五度圏について…等、調にまつわる事項を解説 実際に転調している既存曲をアナライズし、どんな転調をしているかを分析させる 転調を使った曲を作ってもらう 					
【前期】 22回目	「前期試験」					
【後期】 23～26回目	<ul style="list-style-type: none"> ポップスにおけるストリングスアレンジの仕方を解説 楽器編成、音域、パンニング(座り位置)等 ポップスにおける対位法について解説 					
【後期】 27～30回目	<ul style="list-style-type: none"> EDMアレンジについて解説、EDM的なエフェクトの説明(例:フィルター、サイドチェインコンプ等) EDMではない簡単な曲を実際にEDM化してもらおう(例:『ファミマ入店ジングル』) この時に、一つ一つの楽器の音色の大切さ、EDMにおける低音の大切さも教えたいです 					
【後期】 31～35回目	<ul style="list-style-type: none"> EDMアレンジについてさらに補足解説 Future Bass、Trap、プロステップ等、微妙なニュアンスについて解説 上記のような細分化したEDM楽曲を実際に作ってもらう 					
【後期】 36～39回目	<ul style="list-style-type: none"> Mixについて解説(コンプ、EQ、パンニング等) 実際にデモ曲をミックスしてもらおう 					
【後期】 38回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	アレンジは現在進行形で日々、最新のものが変わっていきます。ですので前期は、普遍的に変わることない音楽理論の視点からコードアレンジを教えたいと思っています。後期は、現在の多くのポップソングのアレンジの根幹になっているEDMを中心に、そのアレンジ方法を教えたいと思っています。					
使用教科書	担当講師作成のオリジナル教材を使用します					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アンサンブルII (前期/後期)		授業形態/必・選	実習		必修
	アンサンブルII			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	76回(152単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	<input type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレースのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。					
授業概要						
<p>既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバルライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替える為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。</p>						
到達目標						
<p>合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解、見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。</p>						

授業計画・内容	
【前期】 1～38回目	<p>アンサンブルとは何か ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。</p> <p>課題曲①～④ ・既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作成。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い、譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。</p> <p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</p> <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりリハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。</p>
【前期】 39～40回目	<p>半期のまとめ ・「前期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</p>
【後期】 41～74回目	<p>アンサンブルとは何か ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。</p> <p>課題曲⑤～⑧ ・既成楽曲(課題曲⑤ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲⑥アップテンポ8ビート⇒課題曲⑦ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲⑧8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作成。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い、譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。</p> <p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</p> <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりリハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。</p>
【後期】 75～76回目	<p>半期のまとめ ・「後期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</p>
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	<p>楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう! ※外部では持ち込みが常識です。1クール間(課題曲が切り替わるまで)はレンタル可。 一人が休むと授業の進捗に支障が出ると同時に、最も大切な信用を失ってしまいます。リハや本番に穴を開けると同じと考え、どうしても休む際は学生間で事情を伝えるなどバンドメンバーの一員としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう!</p>
使用教科書	担当教員または学生の制作した譜面

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	DTMⅡ/VOCALOID実習		授業形態/必・選	実習	必修
	イヤートレーニングⅡ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験30年。大手ゲーム制作会社所属にてゲームBGM制作、その後ポップロックバンドのキーボーディストとしてメジャーデビュー、その後インペグ屋所属ミュージシャンとして様々なアーティストのライブやレコーディングに参加、その後2024年現在まで作家事務所所属し、様々なアーティストに楽曲・歌詞を提供。					
授業概要						
既成の音楽を聴いてもらって、それをLogicで再現していく作業、いわゆる耳コピを繰り返していく授業です。						
到達目標						
学生にはみんな同じ曲をコピーしてもらおうのですが、1年次のそれぞれの音感レベルを鑑みて、こちらで個々に到達目標を設定しそのレベルを目指してもらうように指導します。 例えば、耳コピーが苦手な学生にはメロディ・リズム・ベースのみのコピーを目指してもらい、得意な学生にはコード含めすべての音色、細かなリズムのノリ、エフェクト処理までをコピーしてもらう…等。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	1年次よりも少し難解な曲の耳コピーにチャレンジしてもらいます。					
【前期】 7～11回目	同上（耳コピーする曲の選定は、学生の理解度や雰囲気を見て選定）					
【前期】 12～16回目	同上（EDM楽曲で各種エフェクト、音像処理等も教える。例:Zedd『I Want You To Know』）					
【前期】 17～21回目	同上（耳コピーする曲の選定は、学生の理解度や雰囲気を見て選定）					
【前期】 22回目	「前期試験」					
【後期】 23～26回目	同上（オケ楽曲など。例:Gustav Holst『Jupiter』）					
【後期】 27～30回目	同上（耳コピーする曲の選定は、学生の理解度や雰囲気を見て選定）					
【後期】 31～35回目	同上（ジャズ楽曲など。例:Bill Evans『Waltz For Debby』）					
【後期】 36～39回目	同上（耳コピーする曲の選定は、学生の理解度や雰囲気を見て選定）					
【後期】 40回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	音楽をやっていると、いろいろな意味で一先、耳コピーは続けることになります。 この授業はそのコツを学び練習する場です。 「プラモデル制作」、もしくは絵画で言うところの「模写」の楽しさをこの授業で感じてもらえれば幸いです。					
使用教科書	教科書は使わず、音源を用意して教材とします。YouTube等の音楽配信サイトを使うこともあります。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	コライト/DTMキーボードⅡ		授業形態/必・選	実習	必修
	SSコライト			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験12年。Logic proXをベースにKontakt、Waves、Serum等のプラグインを用いたトラックメイキングと編曲、作詞、歌とバイオリンのセルフレコーディングを行い楽曲制作をしている。 自身での活動の他、ボーカリストへの楽曲提供、ゲーム音楽でのヴァイオリン演奏、ライブでのサポートピアニストなどを行っている。					
授業概要						
自身の強み、一緒に制作するメンバーの強みや個性を活かしグループワークでの楽曲制作を行う。						
到達目標						
卒業後、現場に出た際に必ず必要となってくる「他者と作品作りに関わる」ということの難しさを学びグループワークの中で見えてくる自身の強み、共同制作者の個性を引き出せるアーティストになることを目指していく。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	授業の中で対話を重ね、自分が今まで制作してきた楽曲をクラスみんなで聴きながら、どんなアーティストなのかを互いに理解する。					
【前期】 7～11回目	制限時間10分ずつで1工程をリレーしながら90分で一曲を仕上げる形のコライトリレーを行う。					
【前期】 12～16回目	2～4名程度のグループに分かれ、前期試験までに一曲提出するための楽曲制作を行っていく。提出のためのスケジュールも決める。					
【前期】 17～21回目	制作、必要に応じて授業内でレコーディング。					
【前期】 22回目	「前期試験」					
【後期】 23～26回目	2～4名程度のグループに分かれ、冬季休暇までに一曲提出するための楽曲制作を行っていく。提出のためのスケジュールも決め、必要に応じて授業内でレコーディング。					
【後期】 27～30回目	冬季休暇前の楽曲提出。					
【後期】 31～35回目	2～4名程度のグループに分かれ、後期試験までに一曲提出するための楽曲制作を行っていく。また、必ず何か生楽器およびボーカル録りを想定したものとし、スケジュールを立てて制作。楽器録りにあたり譜面の制作も行う					
【後期】 36～39回目	授業内にて楽器録り、歌録り、ミキシング。					
【後期】 40回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	ひとと曲を作ることは、難しいこともたくさんありますが自分の強みを理解できることや、一人で制作するだけでは絶対に得られない新たな発見をもたらすものです。みんなでいい曲が作れるよう頑張りましょう！					
使用教科書	楽曲プロットを固めるためのリファレンス音源として、YoutubeやSpotifyなどを使用。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ヴォーカルⅡ(前期/後期)	授業形態/必・選	実習	選択
	ヴォーカル&ヴォイトレⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、サウンドクリエイターコース(選択)				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験31年 1996年メジャーデビュー。アーティストへの楽曲提供、映画出演、CM、ドキュメンタリー作品のナレーションなどでも活動。				
授業概要					
1年ヴォーカル&ヴォイトレの復習と応用。ヴォイストレーニングで学んだことが実際に曲を歌う中で織り込んでいるかを確認し、出来ていないものの再習得のトレーニングを行い、より実践的な身体の使い方を身に付けていく。					
到達目標					
その曲のそのフレーズに必要な発声法をより確実に行うことにより、伸びやかさと力強さ、柔らかさを兼ね備えた声を駆使出来るヴォーカリストになることを目指す。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	「姿勢、呼吸の自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。表題の項目が、歌唱の中で正しく行えているかの確認を行い、行えていないものに関してヴォイストレーニングのメソッドを繰り返し行う。				
【前期】 5～8回目	「腹式の自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。歌唱時に腹圧が多すぎる、少なすぎるなどの修正を主に行う。共鳴と関連付ける必要性を理解させ、出ている声の質、発声している本人の喉の負担等の知識も併せて学ばせる。				
【前期】 9～12回目	「滑舌の自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。低いメロディーや柔らかい声の時の発音の弱さ、高音域や激しいオケの時のずっと強すぎる言葉の修正を主なものとする。また、フレーズ内で強弱の差を付けるコントロールも実践出来るようにする。				
【前期】 13～16回目	「共鳴の自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。曲の世界観を伝えるのに必要な、伸びやかな声やパワフルな声などを正しく作れているかを主なものとする。更に、フレーズ内でその大小、強弱をコントロールする方法も学ぶ。				
【前期】 17～21回目	「高音域①の自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。フレーズ内の高音域を発声するのに必要な身体の使い方が正しく出来ているかを確認、出来ていないところを、腹圧の度合い、喉の開き、共鳴の設定、重心の位置を主に確認、修正する。				
【前期】 22回目	前期試験				
【後期】 23～26回目	「高音域②の自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。上の「高音域①の自由曲の中での実践、修正、底上げ」の継続。				
【後期】 27～30回目	「支えの自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。フレーズ内のロングトーンの安定、音の跳躍時の重心の設定及び腹式発声の継続を主に確認、修正する。				
【後期】 31～34回目	「トーンコントロールの自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。歌詞の世界観、曲調に必要な声のトーンの設定を、腹式の度合い、共鳴の設定などを確認して修正する。更に、フレーズ内での変化、コントロール方法も身に付ける。				
【後期】 35～36回目	「総合①」学んだこと全てを、例題曲の中で実践出来ているかを総合的に確認、修正する。				
【後期】 37回目	後期試験				
【後期】 38回目	「総合②」上の「総合①」の継続。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	出した声に対して、どう身体をコントロールするかによって聴こえ方、伝わり方が違います。その重要性を理解した上で、曲中でこそ様々な身体の部位の使い方をより高めて、声と言葉だけでも曲の世界観が伝わる歌を歌いましょう。				
使用教科書	全コース共通の教科書を使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ギター(前期/後期)	授業形態/必・選	実習	選択
	ギターベーシックⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターコース、サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験34年。1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、様々なアーティストのバックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
1年次の教材である「Guitar course Basic1」の続編である「Guitar course Basic2」を中心に、基礎力を徹底に身に付ける実技授業。					
到達目標					
1年次で学んだ基礎的知識、技術の習得の徹底。それをもとに実践的な応用力を習得するノウハウを身に付ける事を目的とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～6回目	メジャースケールとインターヴァル ・1年次に学んだインターヴァルの理解向上を、メジャースケールを使いトレーニング。 ・併せて指板上の音の理解向上。 ・複数ポジションでトレーニングにより指板上での音程、音名の理解を深める。				
【前期】 7～12回目	トライアドとインターヴァル ・スケール上で理解したインターヴァルを、4種類のトライアド上でも理解を深めるトレーニング。 ・6弦、5弦、4限ルートポジション。 ・ルート音の変化による音名の変化の対応力を養うトレーニング。				
【前期】 13～17回目	テトラッドとインターヴァル ・トライアドで理解したインターヴァルを、テトラッドに広げてトレーニング。 ・6弦、5弦、4限ルートポジション。 ・ルート音の変化による音名の変化の対応力を養うトレーニング。				
【前期】 18～22回目 (前期試験)	3種類のトニックマイナースケール(ナチュラル、ハーモニック、メロディック) ・3種類のトニックマイナースケールのインターヴァル、音名を確認しながらトレーニング。 ・複数ポジションでのトレーニング。				
【後期】 23～27回目	テンションコード ・コードトーンとテンション ・テンションの種類(ナチュラルテンション、オルタードテンションなど)。				
【後期】 28～32回目	チャーチモードとBluenote Scale ・各モードスケールのインターヴァルの理解。 ・ダイアトニックコードとの関係とアプローチの実践。 ・Blues進行及びBluenoteとBluenote Scaleについて				
【後期】 33～37回目	ドミナント7thスケール ・メジャートライアドを含むコードに解決するドミナント7thスケール(Mixo-lydian Scale, Lydian b7 Scale) ・マイナートライアドを含むコードに解決するドミナント7thスケール(Harmonic Minor Perfect 5th Below, Altered Scale) ・その他のドミナント7thスケール(whole tone scale, Harmonic minor perfect 5th below)				
【後期】 38回目 (後期試験)	アヴェイラブルノートスケール(今までの総まとめ) ・あらゆるコードに対するスケールの選び方、アプローチの方法。 ・循環コード、典型的なコードパターンを使った実践。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	難しい事も多いと思いますが、応用力を身に付けるには何か必要かを常に考えながら、積極的に取り組んでいきましょう。理解が深まれば今よりもっと音楽が楽しくなります。そして将来必ず役に立ちます。				
使用教科書	学内オリジナル教材「Guitar course Basic2」PDFを使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ベースII(前期/後期)		授業形態/必・選	実習	選択
	ベースベーシックII			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ベースコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1992年にロックバンドinfixのメンバーとしてメジャーデビュー。以後、ベーシストとして他アーティストのライブやレコーディングにも多数参加。楽器機材メーカーのモニターも務めています。					
授業概要						
1年生の授業で学んだ基本的な技術や知識の向上をめざします。クリックやドラム音源を使用したリズムトレーニング、コードやスケールなどの理論の解釈と活用法等、ベーシストとして必要なスキルを総合的に学びます。						
到達目標						
中級、上級フレーズを通じての表現力、フィジカルの向上。 現場に必要なテクニック、マインドを学びます。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	ベースラインの作り方① ・ルートにコードトーンを加えたベースライン。 ・ルートに経過音を加えたベースライン。					
【前期】 6～10回目	ベースラインの作り方② ・分数コードを使ったコード進行。 ・ダイアトニックコードの活用法。					
【前期】 11～15回目	ベースラインの作り方③ ・メジャーペンタトニックスケールの活用法。 ・マイナーペンタトニックスケールの活用法。					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	ベースラインの作り方④ ・ペンタトニックスケール+テンションノート。 ・ペンタトニックスケール+ブルーノート。					
【後期】 21～25回目	ベースラインの作り方⑤ ・チャーチモードスケールの活用法。 ・シャッフル等の3連符系のリズムへのアプローチ法。					
【後期】 26～30回目	ベースラインの作り方⑥ ・コード弾きやダブルストップ等の和音を弾く奏法。 ・ハーモニクスを加えた奏法。					
【後期】 31～35回目	ピッキング奏法 ・ダウンピッキングで音のツブを揃えてビートをキープする練習。 ・オルタネイトピッキングで16ビートのリズムや速いフレーズにも対応出来るようになる練習。					
【後期】 36～38回目 (後期試験)	スラップ奏法 ・サムピング&ブルのコンビネーションを使った練習。 ・レフトハンドヒッティングミュート等のゴーストノートを使ったフレーズ練習。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	どんなに良いアイデアがあってもそれを表現出来るスキルがなければ具現化できません。皆さんが持つ素晴らしい個性やキャラクターを発揮する為の基礎力をしっかりと身に付けられるよう指導していきたいと思ひます。一緒に音楽を楽しく学びましょう。					
使用教科書	学内作成オリジナルテキスト「総合カリキュラム2」を使用。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ドラムⅡ(前期/後期)		授業形態/必・選	実習	選択
	グループ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 √ 非該当					
担当講師 実務経歴	実務経験30年 1994年メジャーデビュー。3枚のアルバムをリリースし、TV音楽番組にレギュラーバンドとして出演。現在はサポートドラマーとして数々のセッションやアーティストのライブサポート、レコーディングに参加している。					
授業概要						
一年次に習得した基礎をさらに昇華させ、グループという観点からより実用的かつテクニカルに発展させる。						
到達目標						
音楽家として活動していく為に必要な技術と精神の修得。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	一年次に行った基礎練習の再確認、アクセント移動、手足のコンビネーション、シンコペーション、ダブルストローク ※基本的に練習台で行う					
【前期】 6～10回目	クリック等をいれて、1～5週でやった確認事項のブラッシュアップ、リズムパターンもゴーストノートFill含め基礎的練習が反映されているか再確認 ウラクリックでのトレーニング、パターンへのはめ込み、シャドウトレーニングによるフォームの改善					
【前期】 11～15回目	曲の中で音色、アンサンブル、歌詞などを、他の音を意識しグループをだしていく練習。 現在流行中の生徒にもわかりやすい楽曲を使用しグループとは、一人で創れるものではなくアンサンブルや楽曲の流れの中で創造されていく感覚を掴む					
【前期】 16～22回目 (前期試験)	曲、リズムパターンを15週やった意思の上でスティックコントロールに戻る Allamericandrummerなどの教則本も使用し、ダブルストローク、パレードなどのルーディメンツをグレードアップした練習 ※クリックに対しても4月より 正確な対応をするトレーニング					
【後期】 23～27回目	難易度の高い4Wayで鳴らしている音すべての精度を意識できるように訓練しキッドバランスを整える 特に左足、左手のHHワークやゴーストの手癖などを徹底して修復、ライドシンバルの音色も追求して雑音除去していく					
【後期】 28～32回目	グループの解釈が小さくまとまらないよう、Jazz、サンバ、ラテン、ボサ、レゲエ等ワールドサウンドに触れ、個人それぞれの持つ個性について見つけていく ラテンはソング、サンバはkickの練習として、jazzは小音量のグループ練習として参考音源、映像をまじえ進行					
【後期】 33～37回目	テクニカルな曲やリズムの中でもグループが出せるようにトレーニング クリック練習、チューニングも含めて全体像で音楽を捉えるように11～15週でやったことの発展形を目指す					
【後期】 38回目 (後期試験)	二年間の集大成として、個々の個性を生かしたうえで授業内発表会、今後の活動の礎を探す 研究発表もあり他者の論理を理解し自己の論理を展開できる音楽人なる					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	改めて基本を見つめなおし、その中に自分の個性を見つける。					
使用教科書	必要に応じてプリント等を配布。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アレンジⅡ-A/B		授業形態/必・選	講義	選択
	オーケストレーション			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験16年。合唱曲やオーケストラアレンジ、吹奏楽などを数多く手掛け、LogicProを使用した楽曲制作を行う。					
授業概要						
管弦楽の器楽知識(楽器構造、歴史、音域、得意なフレージングなど)をDTM上で再現する際の注意点や、シンフォニックアレンジのためのポインティングや対位的アプローチ、管弦楽器のプラグイン情報、シンフォニックな鳴りを想定した音作りのミックスを学ぶ						
到達目標						
オーケストラに使われる楽器構造や、ホールレコーディングについての理解。 自身でシンフォニックアレンジができるようになること						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	オーケストラに用いられる楽器の種類や特殊管、交響曲と協奏曲の違い 実際のオーケストラの楽器配置と、ホールレコーディングの残響について それを想定したミキシングについてなどの解説					
【前期】 6～10回目	弦楽器の音域、各楽器の特徴と歴史。得意なフレージングや有名曲などについて解説。 木管楽器の音域、各楽器の特徴と歴史。得意なフレージングや有名曲などについて解説。					
【前期】 11～15回目	金管楽器の、各楽器の特徴と歴史。得意なフレージングや有名曲などについて解説。 ハ音記号の読み方、移調楽器についての解説と読み方について復習					
【前期】 16～21回目	古典派のシンフォニー編成を元に、Logic上でポインティングの解説、 モーツァルトのsymphony no.40のスコアを読み、第一テーマの終わりまでmidiにて打ち込む。 そこからアーティキュレーションなどをよりリアルに近づけていくにはどうしたらいいかの解説。					
【前期】 22回目	「前期試験」					
【後期】 22～27回目	エヴァンゲリオン「the beast Ⅱ」のスコアを読みフルサイズをmidi入力後、 Logic pro X内蔵プラグインのStudio StringsとStudio Hornなどを用いてアーティキュレーションの解説 より原曲に近づけていくためのmidiボリュームコントロールなどを解説、実践					
【後期】 28～32回目	既存曲を用い、シンフォニックアレンジの解説と実践。					
【後期】 33～38回目	自身でフルオーケストラを想定した作品を制作し、後期試験までに提出。 授業の中で一人一人楽曲の進捗を確認する。					
【後期】 39回目	自身でフルオーケストラを想定した作品を制作し、後期試験までに提出。 授業の中で一人一人楽曲の進捗を確認しつつ、フルオケを想定したミキシングまで行う。 シンフォニックな有料プラグインについての解説。					
【後期】 38回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	ゲーム音楽や劇伴音楽を制作していくには、オーケストラに使われている楽器の知識について造詣を深めることはとても大切です。迫力のあるサウンドをDAW上で再現できるようになるよう、頑張りましょう！					
使用教科書	講師オリジナルのものやポケットスコア、youtubeなどのリファレンス動画を使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	課題曲制作Ⅱ		授業形態/必・選	実習	必修
	制作実習			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験15年。昭和音楽大学を卒業後、映画、舞台の音楽監督、アーティストプロデュース、自身の作品のリリース等多岐にわたる活動を展開する。 トラックメイカーとしてはアーティスト提供、ゲーム、V Tuber他等の音楽を制作する。					
授業概要						
Logic Pro Xを中心とした講義を行う。楽曲の構造、時代背景を分析し、それに応じたジャンルを制作する。 MAに近い作業も行い音響的能力も身につける。またAI等の技術を使った制作も同時に学ぶ。						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な制作ジャンルに対応できる能力を身につける。 ・楽曲分析が可能な知識の習得。 ・時代に応じた技術に応じた制作ができる。 						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	Hiphop,RnB,Funk等のブラックミュージックを歴史の把握、構成の分析を行い制作。					
【前期】 6～10回目	Future Bass,Drum'n Bass等のBass Musicを歴史の把握、構成の分析を行い制作。					
【前期】 11～15回目	ケルトミュージックを様々な形式から分析し(モード、メロディ、時代背景)ファンタジックな音楽の制作を行う。					
【前期】 16～21回目	仕事の受注を想定した内容で上記の中のジャンルから選び提出。					
【前期】 22回目	「前期試験」					
【後期】 22～27回目	イマジネーションを刺激させる音響の制作(プールサイド、宇宙空間等)。					
【後期】 28～32回目	AI等を使った最新技術を駆使しての制作(プロンプトでの音楽の育成等)。					
【後期】 33～37回目	様々なジャンルを融合したオリジナル曲の制作。					
【後期】 38回目	上記の制作のミックス、マスタリングを行い最終作品の提出。					
【後期】 39回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	今までに自分が興味が向かなかったジャンルの音楽の制作もあると思いますが、 歴史、構成の知識を得ることで理解し楽しむことができるのが音楽です。一緒に学びましょう!!					
使用教科書	学内作成オリジナル教材の使用。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	Track MIX		授業形態/必・選	講義	必修
	理論Ⅱ中級			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験26年。ESP音楽アーティスト科コース卒業後在籍したバンドのキーボーディストでデビュー。 12年の活動終了後は数々のライブ、レコーディングサポートを行う。 ポップスに限らず舞台音楽演劇音楽などのジャンルの音楽アレンジ、作曲を行う。					
授業概要						
1年時に学習してきた内容を再確認。同じ内容になる事も繰り返し何度も行なっていきながら 実際の曲で使われているコードワークやスケール、ボイスイングなどを分析しながら説いていく。						
到達目標						
コードワーク、スケールの基礎知識の再確認。 楽曲のコードを見た時どういふ展開の曲なのかおおよそのスケールの把握ができるようになるようになること 自身の楽曲の中で使用出来るようになること。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	コードプログレッション(メジャースケール マイナースケール基本進行) 調号 Key ダイアトニックコードの基礎知識再確認。					
【前期】 6～10回目	サークルオフ5th セカンダリドミナント ドミナント7thの2-5化 メジャーマイナーペンタトニック ブルーノート 日本のスケール 世界の民族音楽スケールなどの復習					
【前期】 11～15回目	ナチュラルマイナー、ハーモニックマイナー、メロディックマイナー 各ダイアトニックコード、サブドミナントマイナーその代理コード dimコードsus4コード 転回系ボイスイング					
【前期】 16～19回目	様々な楽曲の中で使用される分数コード 置換ドミナント裏コード、代理コード解析分析 実際の楽曲をリハモ実践					
【前期】 20回目	「前期試験」					
【後期】 21～25回目	基本クローズボイスイング メジャー系モード(リディアン、ミクソリディアン) 復習再確認と実際の曲で解説 実践					
【後期】 26～30回目	基本オープンボイスイング マイナー系モード(ドリアン、フリジアン、ロクリアン) 復習再確認と実際の曲の中で解説 実践					
【後期】 31～35回目	テンション基礎知識 テンションボイスイング 用意したメロディーをリハーモナイズ、様々な転調パターンとアプローチ メロディライン効果的に効かせるテクニック の解説 実践					
【後期】 36～39回目	曲想を決める様々なコードパターンを紹介 ドミナント7thに使用できる5つのスケール (コンビネーションディミニッシュ、ハーモニックマイナーパーフェクト5thビロウ、ホールトーン、 オルタード、リディアン7th)					
【後期】 40回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	理論とは本当に初めは取り掛かりづらい内容です。ですがあなたが制作をする上に煮詰まったり 悩んだ時に感性とは180度違うアプローチで自分を補って理解を深めさせてくれる大切な要素です。 理解できるまでとことん一緒にやっていきましょう！					
使用教科書	実践コードワークI (理論編) 新実践コードワーク(ボイスイングとプログレッション)コードとスケールトレーニングなど					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	Track MIX		授業形態/必・選	講義	必修
	理論Ⅱ上級			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験43年。 1981年より石川優子等のアーティストのサポート活動でキーボーディストを始める。1983年より企業VTR,CM映像などの音楽制作、AKAI電子楽器のデモストレーター活動も始める。2002年よりESP学園講師就任、現在もアーティストのサポート、映像音楽制作等の活動中。</p>					
授業概要						
コードアナライズ、ボイシング(ハーモニー)スケール等の理論的アイデアの向上と習得。サウンド作り、作曲、編曲の幅を向上させる。						
到達目標						
既存楽曲のコードアナライズ分析と研究。スケールからのフレーズ作りの向上。音楽知識の向上でサウンドのレベルアップ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	コードアナライズI,SD,D./SDM,SecDom.,ナチュラルマイナー、ハーモニックマイナー、メロディックマイナーの解釈と確認の復習。ドミナントモーション5-1の理解の確認エクササイズ。ダイアトニック上で使えるテンション、b9thインターバルのアポイドノートの解説とエクササイズ。					
【前期】 6～10回目	2-5進行でのA,form/B,formボイシング、ドミナント、トライトーン解説とエクササイズ。スプレッドボイシング、ドロップボイシング、アッパーストラクチャートライアドの解説とエクササイズ。2-5-1-6進行のボイシングエクササイズ、トップノートの流れを意識したボイシングとエクササイズ。					
【前期】 11～15回目	クロマチックスケールを2つに分けるホールトーンスケールとaugコード/3つに分けるディミニッシュスケールとコード、ドミナントコードとトライトーンの解説とエクササイズ。					
【前期】 16～19回目	ハーモニックマイナー、メロディックマイナー、オルタード、Lydb7th,Hmp5down,スケールの解説。コードアナライズとコード進行に対してのスケール、アプローチノートの解説フレーズ作りエクササイズ。					
【前期】 20回目	「前期試験」					
【後期】 21～25回目	7つのモードスケールと各スケール上のダイアトニックコードの解説、モーダルインターチェンジの解説と楽曲分析にフレーズ作りエクササイズ。					
【後期】 26～30回目	ブルースコード進行の種類と解説、ミクソリディアン、ブルーノートスケールの説明とフレーズ作り、サンプルフレーズのエクササイズ。					
【後期】 31～35回目	ドリアンモード、ペンタトニックスケール上のできる4thボイシングの解説、循環コードでの使用エクササイズ。ハンガリアンマイナースケールなどの異国情緒的スケールの解説、参考コード進行でのフレーズ作りエクササイズ。					
【後期】 36～39回目	コードアナライズ、コード進行に対してのスケール、ボイシングの復習。6thdimコードワークの解説とドロップ2ボイシングも使ったエクササイズ。					
【後期】 40回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	理論は難しいですが基本は後付け！音が先！他の人次の世代への解釈、分析の伝達手段のために言い回しが難しい。自分のサウンド作りの向上のために上手く使う。コードの分散和音の音名、ドミナントのトライトーン、コード進行をディグリーネームで覚えることは自分のために必要です。					
使用教科書	オリジナルPDF,既存のPDFを使用。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードII(前期)	授業形態/必・選	実習	選択
	応用キーボード(前期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験29年。1980年レコードデビュー。1984年より音楽学校講師に就任。 1995年よりESP学園にて講師就任 現在もキーボードプレイヤー&コンポーザーとして活動中。。				
授業概要					
鍵盤楽器の奏法について解説、追及する。					
到達目標					
鍵盤奏法の知識習得とテクニック向上。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	課題曲の練習。データに合わせてプレイする ①				
【前期】 6～10回目	課題曲の練習。データに合わせてプレイする ②				
【前期】 11～15回目	課題曲の練習。データに合わせてプレイする ③				
【前期】 16～18回目	課題曲の練習。データに合わせてプレイする ④				
【前期】 19回目	「前期試験」				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	鍵盤楽器の上達は基礎的な奏法知識と練習あるのみ。日々の努力が必要です。				
使用教科書	個人的に作成した譜面やデータなどを使用。				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(後期)	授業形態/必・選	実習	選択
	応用キーボード(後期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験29年。1980年レコードデビュー。1984年より音楽学校講師に就任。 1995年よりESP学園にて講師就任 現在もキーボードプレイヤー&コンポーザーとして活動中。				
授業概要					
鍵盤楽器の奏法について解説、追及する。					
到達目標					
鍵盤奏法の知識習得とテクニック向上。					
授業計画・内容					
【後期】 1～4回目	課題曲の練習。データに合わせてプレイする ①				
【後期】 5～10回目	課題曲の練習。データに合わせてプレイする ②				
【後期】 11～15回目	課題曲の練習。データに合わせてプレイする ③				
【後期】 16～18回目	課題曲の練習。データに合わせてプレイする ④				
【後期】 19回目	「後期試験」				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	鍵盤楽器の上達は基礎的な奏法知識と練習あるのみ。日々の努力が必要です。				
使用教科書	個人的に作成した譜面やデータなどを使用。				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記			授業形態/必・選	講義	選択
	2年ソングアナライズ(前期)			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験38年 様々なアーティストのライブツアーに参加、バンドデビュー。その傍らアレンジャー・キーボーディストとして活動。 また、ミュージカル・舞台劇・映画・TVドラマ等の音楽制作を担当。 キーボード教則本を出版する。近年はトレーナーとしても活動する。</p>					
授業概要						
<p>様々な曲のメロディーやコード進行等を音楽理論的な側面から分析・研究する。 それを踏まえリハーモナイズ(簡単なメロディーにコード付け)や、与えられたモチーフからメロディーを展開しコードを付ける練習課題に取り組む。 楽譜の読み書き(スコアリーディング・ライティング)のトレーニング。</p>						
到達目標						
<p>色々な曲から感じ取れる印象の背景にある音楽的手法を理解する事で自身の作曲のスキルの幅を広げる。 また授業で取り上げる曲だけでなく、各自が興味を持った曲を分析・研究する手法を習得し自身の作曲につなげる。</p>						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	<p>アナライズの手法を学ぶ ・調性の判断と、ダイアトニックコード、曲のコードにディグリネームを書き込みコード進行を理解する。 ・和声音と非和声音。順次進行・跳躍進行。モチーフとその展開、また繰り返しのメロディーに違うコードを用いる方法など ・リハーモナイズ・簡単なメロディーに様々なコードで彩る可能性を探る</p>					
【前期】 6～10回目	<p>平行調・同主調 ・曲の中でその雰囲気に変化を与える平行調や同主調の使用例 ・セカンダリドミナントの使用例の研究 ・ノンダイアトニックコードを使用する際に、メロディーの音階も変化する(臨時記号が付く)例について</p>					
【前期】 11～15回目	<p>ディミニッシュやハーフディミニッシュについて ・前後のコードを経過的につなげるコードの使い方 ・ディミニッシュやハーフディミニッシュに入れ替え可能なコード、コード進行 ・リハーモナイズの課題でディミニッシュやハーフディミニッシュを使用する可能性を探る</p>					
【前期】 16～19回目	<p>曲の印象とメロディーやコードの使い方を具体的に考察する ・曲の中で印象的な部分についてメロディーの動きやコード進行、歌詞がどう伝わるかを具体的に分析する ・使用されているノンダイアトニックコードを判別し、その機能と曲に対する効果を考察する ・分析した内容を記述形式で表現し、曲に対する理解を深める</p>					
【前期】 20回目	「前期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	「創る」という事に集中すると、どうしてもワンパターンになってしまうなどの壁に当たってしまうのは誰にもある事です。様々な曲を作曲目線で分析する事で、音楽の要素を吸収して新しい曲を創るエネルギーにしましょう！！					
使用教科書	担当教員の制作した資料					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習Ⅱ			年次	2年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	<input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。						

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目～7回目	コースイベント①②
8回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅡ(前期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
4～6回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
7～9回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～19回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅡ(後期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
4～6回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
7～9回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
10～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～19回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。